

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 8月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103189		
法人名	社会福祉法人広島常光福祉会		
事業所名	グループホームげんき福田		
所在地	広島県広島市東区福田5丁目1168番地1 ☎ (082) 899-7588		
自己評価作成日	平成29年6月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103189-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年8月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・利用者一人ひとりの能力を全職員が把握、情報共有し、日々の支援を行っています。・利用者と職員が家事全般において共同し、一緒に施設を運営することを目標としています。・利用者家族とも同様に度々連絡し、情報共有しています。・町内会に加入し、町内清掃に参加、ボランティアの受入、他部署との交流事業等と、充実した生活が送れるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、理念の深化がある。即ち、法人の経営姿勢に沿って職員で作った「げんき福田ケア宣言」に3年前から取り組み、日々の実践に繋げる様、全員で共有している。それに基づいた、今年のケア目標は、去年の課題を踏まえ、「繋がる」であり、各職員が次に働く人が動きやすい環境に整えて、次に繋がる仕事を行い、家族や地域との繋がりを大切にする事で利用者がゆっくりと過ごせる環境作りを目指している。第二に、外出支援の深化がある。即ち、数年前にも事業所の外出行事として実施した経緯はあるが、利用者の状態像の変化もあり、今年は家族会の協力の下、「神田山荘」へ利用者全員がタクシーを利用して日帰り旅行を楽しむことができた。利用者の気持ちが動くような事前の関わりを持ちながら、普段は行けないような所へ外出し、ワクワクした「非日常」を楽しめる、一歩踏み出せた支援となった。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	1年間の事業所理念を掲げ日々努力しています。その理念をより細かくした目標を毎月挙げ実践しています。結果は職員会議にて実施出来た点、反省点等を挙げています。	法人の経営姿勢に沿って職員で作ったケア宣言を掲示し、申し送り時に唱和して、日々の実践に繋げる様、全員で共有している。それに基づいた、今年のケア目標は「繋がる」であり、各職員が次に繋がる仕事を行い、家族や地域との繋がりを大切にする事で利用者がゆっくりと過ごせる環境作りを目指している。年度末の職員会議で具体的な計画の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内清掃や各種行事へ準備も含めて参加し交流を深めています。運営推進会議にも地区の方をお招きし情報交換を行っています。	日頃から近所への散歩や回覧板回して地域交流を行っている。町内会に加入し、町内清掃や「とんど」等の地域行事に協力すると共に法人主催の「ふくふく祭り」では多数の地域住民の参加もあり、相互交流を深めている。また、町内会の女性会の繋がりで裁縫ボランティアや教育科・栄養科の大学生の見学の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員の中に「認知症アドバイザー養成講座受講者」が1名おり、認知症全般におけるの支援方法等を地域に活かせるように備えています。随時施設見学を受け付けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者とその家族、地域包括支援センター職員、町内会長等と職員が出席し2ヶ月に1度開催しています。職員内の専門職や出前講師等による勉強会、意見交換会を行っています。	会議は定期的で開催され、利用者・家族、町内会長、社協職員、地域包括支援センター職員がほぼ毎回参加している。会議では、サービスの質の向上に繋げる様に事業所の現況報告が、参加者との意見交換と共に行われ、参加者からの提案で開催日の調整を行った経緯がある。議事録の閲覧や送付により家族との情報共有も図っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町、区役所担当者との連絡は密に行い何か有った際に逐一報告、連絡、相談しています。運営推進会議への参加を依頼し協力関係を築いています。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員がほぼ毎回参加し、情報共有を図ると共に、開催報告書は市町担当者に毎回送付している。日々の運営上の相談・助言の他、行政主催の虐待の外部研修にも参加して、連携強化に努めている。また、運営推進会議では市職員による出前講座でマイナンバー制度の研修会を行った例がある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年2回必ず時間を取り職員全員で知識の統一を図っています。新職員には身体拘束による弊害等を逐一説明しています。</p>	<p>内・外部研修を通して、職員は「拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。玄関は安全上、内側からは職員手動とし、外出希望があれば、職員が同行している。利用者によっては、夜間はベッドサイドの足元にセンサーマットを設置する等、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束同様に年2回の勉強会を開催し職員全員で勉強しています。日々の支援の中も職員全員で注意し声掛け等行っています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員内で良い資料や情報が有れば全職員に共有できるようにファイリングしています。法人内の勉強会で該当する内容が有れば出席できるよう配慮しています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書を用い必ず家族様にも同席頂き説明しています。契約後には事業所と利用者間で1部ずつ書面が残るようにしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>サービス担当者会議や面会時、運営推進会議時に意見交換行っています。苦情相談窓口も設けいつでも対応すると契約時にも説明しています。</p>	<p>利用者の意見は日々の職員との会話を通じて把握し、家族とは面会時や介護計画更新時、運営推進会議や毎年の家族会等で、把握する様に努めており、それを業務日誌等に記録し、職員間で共有している。家族からの提案で、運営推進会議の中で紹介される年間行事の利用者の生活風景をDVDで放映した経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1度は必ず職員会議を開催し全職員で意見交換を行っています。その他に管理者、役職者は日々の業務の中で職員の意見を聞ける体制を取っています。	毎月の職員会議や毎日の申し送りや半期毎の個別面談等を通し、意見を聞く機会を設け、必要があれば業務日誌等で共有して、介護方法・業務上の提案や個人目標等に対する支援体制をとっている。職員からの意見で、利用者が分担している掃除等、家事の役割分担を調整してケアの工夫を行った経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の勤務状況を把握し年2回の人事考課を行っています。評価は賞与等に反映させています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入職員には役職以上が法人内のルール説明等を行っています。法人内研修、外部研修には勤続年数に合わせた内容で推薦し出席させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部・内部研修に積極的に出席させ新しい知識を取り入れる機会と交流できる機会を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	得た情報はサービス開始までに全職員に周知徹底できるようにしています。サービス開始後気づき等有れば報告し合うようにもしています。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や利用者とその家族による施設見学は必ずお願いし不安を取り除けるようにしています。いつでも相談を受けられる体制にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	全職員で意見を出し合い常に新しい情報を得るような体制を確保しています。必要時には法人内の他部署も紹介できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員都合の動き・考えは止め常に利用者と職員が信頼関係の基に生活できるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者との関係同様に一緒に支え合う関係作りを大切にしています。度々連絡を取り合っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの有る本人の持ち物は施設で対応できる範囲で持ち込みの許可はしています。面会、外出等も出来る範囲で対応しています。	「地域との絆」「気軽に訪問できる事業所作り」を大事にし、知己の訪問や、利用者との会話や生活歴を参考に家族の協力で自宅・墓参り等への外出を行い、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。それらはケース記録に残し、情報共有をしている。利用者の希望で夫の見舞いに繋げた例がある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日を楽しく生活して頂けるように集団レクへの参加、個別レクの実施、各ユニットごとの交流時間を設けています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	法人内の他部署に転居され出会った時には利用者と家族には声を掛けさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時のアセスメント時には本人・家族にしっかりと聞き取りを行っています。それ以外にも日々接している中で希望等を聞いたら即対応出来るようにしています。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解する様努めている。それ等の情報は業務日誌・ケース記録に残し、職員間で共有している。例えば、意思疎通の困難な利用者が不機嫌になるのは、職員の冷たい手の為だとわかり、温めた手で接するようにした経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所までの面接時等に本人・家族に必ず聞き取りを行っています。馴染みの有る本人の持ち物を居室で使用出来るように出来るだけ配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	支援する前に記録と申し送りで直近の様子を確認しています。細かな様子まで記録に残しています。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族、主治医、職員間で意見を出し合い介護計画に反映させています。家族とは面会時等には意見交換を行っています。</p>	<p>原案作成は暫定プランのアセスメントを踏まえ、計画作成担当者又はリーダーが行い、家族・リーダー・利用者毎の担当職員でカンファレンスを行い、本案を作成している。モニタリング・計画の見直しは4か月を基本に行っている。手先が器用で、物事を教えるのが得意な元教師の利用者に手芸作業の仕切り役を立案した例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の1日の様子が分かりやすいように項目毎に色分けし記録に残しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>介護計画で計画したとしても、本人・家族より希望有れば即変更しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会に入り地域との繋がりを大切にしています。町内会行事には積極的に参加しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医がグループホームから近く急変時にはすぐ対応して下さります。主治医以外の受診希望時には家族の協力も得られるように事前に説明しています。</p>	<p>入居前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。協力医からは週1回の往診があり、専門医の受診は家族による。医療連携により、協力医の往診時に訪問看護師の来訪があり、利用者の健康状態を把握している。又、月1回の訪問歯科診療と相まって、適切な医療を受けられる体制となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の看護師と訪問看護の契約を行っています。急変時にはすぐ受診出来る体制を取っています。協力医が近くに有るのも本人・家族も安心されます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はすぐに情報提供行っています。経過状況を確認する為に病院の相談員との連絡は密に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前の面接時と契約時に重度化した場合には対応出来ない場合も有ると説明し、本人・家族が納得されてからの入所としています。協力医療機関と医療連携体制契約を結んでいます。	入居時、重要事項説明書にて事業所としての基本的な方針を説明し、同意書にて確認をしている。原則看取りは行わないが、重度化した際には、関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。予め介護老人福祉施設等への申し込みの検討を依頼したり、入院により十分な医療支援体制に取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間計画で勉強会内容に必ず入れ職員全員で情報共有しています。事故等有った後にはその経験を活かせるように職員全員で見直し、検討等を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回は訓練を行うように計画を立て毎年実行しその内1回は夜間を想定しています。訓練には家族、地域の方、消防職員にも声を掛け合同訓練を行えるようにも計画しています。職員はその他にも外部研修にも出席し訓練しています。	消防署の指導の下、年2回の避難訓練を1回は隣接の法人施設との合同訓練、もう1回は運営推進会議開催時に実施している。更に夜間想定訓練、緊急連絡網の伝達、防災の勉強会等、日頃からの意識付けを強化した短時間の実践的な自主訓練も実施している。また町内会との緊急連絡網や避難誘導後の身守り等の協力体制もある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	必ずプライバシー保護の勉強会も計画し全職員勉強しています。勉強した内容を日々の支援の中で活かしています。	内部研修で、職員の幅広い知識の習得とスキルアップを図る体制もあり、それにより職員も利用者目線に対応し、尊厳に配慮出来るようになった。例えば、トイレ誘導時には「ちょっと～」「～を手伝って下さい」等、声掛けを工夫したり、入浴誘導の際も更衣室で他の利用者の視界に入らないように順路を工夫する等の配慮もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が何でも言いやすい環境作りをしています。職員が全て決める事はせず利用者の自己決定を促す対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースに合わせた支援を行っています。食事を遅らせて食べたい希望有ればそのようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に応じた服を着て頂けるように配慮しています。衣替え時には家族の協力も得ています。出張理美容は月1回の予定です。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器洗いや味付け等は職員と利用者が楽しみながら行っています。利用者の希望や食から季節を感じて頂けるメニューを計画してその都度取り入れる機会を設けています。	昼・夕食は、法人指定の業者の献立により調理された食材が運ばれ、事業所で加熱等を行うが、夕食の一品とおやつは利用者の手作りとしている。又、月に1回は利用者の好みによる、そうめん等の季節料理を利用者と共に作り、楽しんでいる。更に日帰り旅行での夕食や系列施設へのドライブで午後の紅茶を堪能することもある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事摂取量は毎食記録しています。不 足分は代替品で対応しています。キザ ミ食、ミキサー食にも対応していま す。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後入歯洗い、歯磨き、うがいと全 利用者に行っています。夜間は入歯洗 浄剤を使用し清潔を保っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い各利用者の排泄 パターンを把握しその時に応じたパツ トや排泄用具を使用しています。排泄 用具は度々見直しています。	排泄誘導表等により、各人の排泄パター ンを把握し、トイレ誘導を基本としてい る。紙パンツから時間誘導での布パンツ に改善した例や布パンツでは自力で後始 末が難しいので、紙パンツから始める 等、排泄の自立に向けた支援を行ってい る。又、可動式手すりや前手すりを設置 して環境整備も為されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給は度々行っています。食事に ヨーグルトを付ける等も工夫していま す。運動する機会を増やし必要時には 温罨法も実施しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴日は決めずその日の体調を考慮し 利用者の希望があれば優先し入浴して頂 いています。	週2回の午後浴を基本とし、利用者の体 調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時 間等で柔軟に対応している。入浴は半埋 め込み式家庭浴槽での個人浴となってお り、利用者の負担を考え、シャワー浴や 足浴等で対応することもある。浴槽内外 に滑り止めマットを設置したり、脱衣室 と浴室の温度差によるヒートショックへ の配慮もある。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床時間は利用者にお任せしています。ご高齢の方は特に職員からも声掛けし臥床する時間が出来るよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的な薬剤指導を職員も受け最新の情報を得て勉強しています。変更有れば職員内で統一した情報を共有出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割を持ち日々過ごせるようにケアプランにも取り入れ計画しています。利用者1人だけでなく職員も一緒に動き支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員とはもちろん家族との外出も積極的に取り入れています。職員とは回覧板を持って行ったり、畑での農作業、外気浴等を定期的に行っています。	普段から希望により、少人数で近所の散歩や回覧板回し等で地域交流を図ったり、家族の協力で受診や墓参り、お孫さんの結婚式に出掛けることもある。家族会の日帰り旅行で神田山荘での外食や系列施設へのドライブで午後の紅茶を堪能する等、普段は行けないような所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来るだけ本人の希望に沿うように支援しています。紛失の恐れが有る利用者がどうしてもお金を持っておきたいというのなら紛失の恐れも有る事を家族に説明し承諾を得て実行しています。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が連絡を取りたいと希望する時には電話や手紙を用いています。メールでのやりとりも行っていきます。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾りを利用者と一緒に作り飾っています。毎食後には掃除を行い清潔を保っています。	フロアには季節毎に利用者で作った折り紙や小さな紙を筒状にして組み合わせた筒絵等の「壁掛け作品」を飾ったり、「カーブ作品」も会話の糸口になっている。また、脱衣室と浴室の温度差によるヒートショックを防ぐため、温度管理に注意している。利用者同士の関係性や動線に配慮した席順やテーブル配置の工夫もみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや椅子を各所に設置することによって思い思いの時間を過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員、本人、家族で話し合い出来るだけ本人の希望を受け入れています。	居室にはベッド・洗面台・クローゼットが設置され、利用者が筆筒など使い慣れた物や仏壇など好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に設えてある。利用者に温度確認をして、室温調整も行っている。又、利用者によっては、夜間はベッドサイドの足元にセンサーマットを設置する等、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	どの利用者にも分かるように案内し各居室には表札を付け表示しています。利用者の導線に危険物を置かない様に配慮しています。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき福田

作成日 平成29年8月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	29	地域との交流内容や交流回数が少ない。(現在大きな行事参加は町内会とんどのみ)	町内会とんど以外の地域行事に参加。	<ul style="list-style-type: none">・とんど以外の地域行事施設行事として立案。・地域行事は入居者と一緒に外出も兼ねて参加。・見学、観戦といった内容でもよい。・参加に際して町内会の協力が得られるように声をかけていく。	1年
2	10	家族アンケートより日頃からの要望等、職員が家族に聴き取りを行っていないという回答あり。他にも健康面や安全面、医療面に関しての不安もあり、今後苦情となる可能性がある。	チャンスがあれば家族へ積極的に聴き取りを行い、家族とホームの距離を近づけ、意見しやすい環境を整える。	<ul style="list-style-type: none">・面会、カンファレンス時等、家族と話す機会には必ず今後の要望を聴き取る。・聴き取った内容は職員間で共有して入居者の対応などに役立てる。・聴き取った内容で実現可能なものについては運営推進会議で公表。ホームの運営に反映していく。	1年
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。